

【教育実践論文(ソニー子ども科学教育プログラム) 審査講評】
2021年度 最優秀校
横浜市立立野小学校

「科学が好きな子ども像」を、自然に浸る、じっくり観察する、感動する、問い続ける、新しい考え方を自分たちで作り出すなど、目に見える子どもたちの活動や態度として定め、導入の工夫、問題解決の繰り返し、めあてと振り返り、活用場面の設定という単元構成に従って、しっかりとした指導計画に基づいて授業が実践されています。

どの実践も、貴校の手立てに沿った活動がしっかりと行われており、じっくりと観察することにより好奇心や疑問を誘発し、子どもたちが主体的に学習する姿が見られます。天気の変化の学習と運動会当日の天気予想、年間を通じて根岸森林公園の自然と関わる学習、個別支援学級のおもちゃランドの学習など、良く工夫された授業が行われており、成果と課題においても、子どもの変容の姿がよく見とれており、それをきちんと整理し、次年度も継続して行く自信が感じ取れます。

次年度の計画においても、課題を分析することにより改善点が具体的に示されており、ICT機器の効果的な活用、「観察する姿」と「じっくり観察する姿」の違いをまとめ子どもの姿を明確に規定しなおしていること、JAXAと連携して授業を行うことなど、新しい取り組みがどのように展開されていくのか楽しみです。